

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 令和4年度 委託業務実績報告書

プログラム名：学術知共創プログラム

研究テーマ名：よりよいスマートWEを目指して：東アジア人文社会知から価値多層社会へ

実施機関：京都大学

1. 業務の実施日程

研究項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 議論プラットフォーム およびHP構築			←						→			
② シンポジウム・研究会 等の開催					←							→
③ 人的交流G：小田急沿 線フィールドワーク					←							→

2. 業務実績の説明

① 議論プラットフォームおよびHP構築

チャットツール（Slack）を活用し、本PJ参加者全体が議論可能なバーチャルプラットフォームを構築した。当該プラットフォームは、PJ全体のマネジメント、研究内容についての議論、および協力企業との連絡のために活発に仕様された。さらに、本研究の成果を社会発信するHPを構築し、活動報告を順次アップロードしている。

② シンポジウム・研究会等の開催

本PJのキックオフイベントとして、「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」との共催シンポジウム・ワークショップを開催した（2022年8月25日）。本イベントでは、前半にPIである出口がPJの基盤となる理念について基調講演を行い、その後「新たな価値の創造を求めて-“わたし”と“われわれ”の境、人間と人工物の境を問い直す」というテーマで、石黒浩教授(大阪大学大学院基礎工学研究科)、青木宏文教授(名古屋大学未来社会創造機構)、堂目卓生教授(大阪大学社会ソリューションイニシアティブ)をパネリストとして迎え、出口のモデレーションのもとで、議論が行われた。

また、PJ全体の研究成果の情報共有の場として、国際ワークショップ “Toward a Better WE”を、JST-RISTEX RInCAプログラム「コミュニティのスマート化がもたらすELSIと四次元共創モデルの実践的検討」との共催で開催した（2023年2月21-22日）。本ワークショップでは、海外の研究協力者にも数多く参加いただき、様々なテーマの議論が活発に行われた。「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」シンポジウム（2022年12月15日）では、PIの出口が登壇し、研究活動報告を行った。第5回日立京大ラボ・京都大学シンポジウム「創造的市民による社会づくりとWellbeingの実現」では、出口および朝が登壇し、当PJの取り組みについて報告を行った。

比較WE学Gの活動としては、「ヒュームとWE」研究会（継続的に開催）、国際ワークショップ“Dogen on WE”（2022年12月5日）、および“Self and Infinity”（2023年3月20日）をフッサール文庫（パリ）との共催で開催し、様々な時代・地域における「WE」概念について、資料収集・情報交換および分析を行った。

③ 人的交流G：小田急沿線フィールドワーク

人的交流Gの活動として、本年度は次年度以降の実証実験を行うための体制構築に注力した。具体的には、小田急沿線の都市（黒川・栗平・下北沢）および小田急電鉄本社を訪問し、現地の担当者・ステークホルダーとの関係構築を行った。このほかに、小田急側の担当者とはオンラインでの打ち合わせを重ね、実証実験の計画立案を行った。また、小田急グループが主催するOdakyu Innovation Week 2023, Day1 “ひと”起点の街作り（2022年12月5日）にPIの出口が登壇し、地域創生についての議論を行った。

【研究成果の発表状況等】（責任機関（研究代表者）のみ記載）

○論文（計10件） うち査読付論文 計2件、うち国際共著論文 計2件、うちオープンアクセス 計1件

1. 出口康夫、「できなさ」からWEターンへ「思想の言葉」、『思想』、no.1179、2022. 6、pp. 2-4、査読無
2. 出口康夫、現前世界としてのメタバース、『現代思想』（青土社）、vol.50-11、特集「メタバース」、2022. 9、pp. 199-208、査読無
3. 出口康夫、Self-as-Anything: 道元における自己と世界、『比較思想研究』、vol.49、2022. 11、pp. 3-10、査読無
4. Deguchi, Y.; Onishi, T.; Akiyoshi, R.; Yagisawa, T.; Yamamori, M. Logic of Alternative-I, Asian Journal of Philosophy, 2022, vol.1(2), pp. 1-16, [10.1007/s44204-022-00050-2](https://doi.org/10.1007/s44204-022-00050-2)、査読有
5. Kato, T.; Kudo, Y.; Miyakoshi, J.; Owa, M.; Asa, Y.; Numata, T.; Mine, R.; Mizuno, H. Social Co-OS: Cyber-human social co-operating system. IET Cyber Phys. Syst. Theor. Appl. 2023; 8: 1-14, <https://doi.org/10.1049/cps2.12037>、査読有
6. 田口茂、〈媒介〉が開く知の光景——ラトゥールと田辺哲学と現象学の交叉点、『現代思想』、51(3)、2023、pp. 185-193、査読無
7. 三谷尚澄、「念慮を透脱する語句」と「メタファー」——「論理空間の外部」に位置する言説をめぐる混交哲学の試み、『未来哲学』、第5号、2023、pp. 231-261、査読無
8. 三谷尚澄、山はいつでも歩いている——「プラグマティストの形態における表出主義」と道元、『比較思想研究』、49号、2023、pp. 11-18、査読無
9. 護山真也、未来の仏教倫理学のために、『未来哲学』、第4号、2022、pp. 220-226、査読無
10. 護山真也、色即是空のアポリア——鳩摩羅什と玄奘による『般若心経』の翻訳をめぐる、『未来哲学』、第5号、2023、pp. 57-70、査読無

○著作物（計6件）

1. 出口康夫、共編著、『軍事研究を哲学する-科学技術とデュアルユース』、出口康夫、大庭弘継編、354ページ、「序論：デュアルユースとELSIに取り組む総合知にむけて」、第12章「デュア

- ルユースからミックスドユースへ」、「あとがき」、昭和堂、2022. 8.
2. 三谷尚澄、翻訳、『コスモポリタニズム「違いを越えた交流と対話」の倫理』、クワメ・アンソニー・アッピア著、312ページ、みすず書房、2022. 9. 16.
 3. 出口康夫、共著、『危機の時代と田辺哲学 田辺元没後60周年記念論文集』、廖欽彬 河合一樹編、474ページ、「初めからの「実存協同」へ」：第I部「座談会＋総合討議：田辺哲学の現代的意義ーコロナ時代に向けて」法政大学出版局、2022. 11.
 4. 田口茂、共著、『危機の時代と田辺哲学：田辺元没後60周年記念論集』、廖欽彬 河合一樹編、474ページ、「田辺元の「媒介」概念とそのポテンシャル」、法政大学出版局、2022. 11
 5. 村上祐子、共著、出口康夫・大庭弘継編『軍事研究を哲学する：科学技術とデュアルユース』、354ページ、「論理学と軍事」、昭和堂、2022. 8.
 6. Murakami, Y., Reconstructing Agency from Choice. pp.125-134 in Masahiro Morioka. (ed.) Artificial Intelligence, Robots, and Philosophy. Journal of Philosophy of Life, 158 pages, 2023. 1.

○講演 （計41件） うち招待講演 計19件、うち国際学会 計15件

1. 出口康夫、Self as Anything: 道元の「自己」と「世界」、シンポジウム「道元と分析アジア哲学」、比較思想学会第49回大会、2022. 6. 18、信州大学.
2. 出口康夫、「できること」から「できなさ」へ、第794回仏教文化講座（浅草寺）、2022. 6. 20、丸の内マイプラザ
3. 出口康夫、「できること」から「できなさ」へ：「われわれ」として生きる・ウィズコロナ・アフターコロナの地域社会、第74回大阪府民生委員児童福祉委員大会記念講演、2022. 7. 8、大阪国際交流センター.
4. 出口康夫、『軍事研究を哲学する』合評会、2022. 7. 13、企画・主催・趣旨説明・パネルディスカッションファシリテーター、東京工業大学田町キャンパス・キャンパスイノベーションセンター.
5. 出口康夫、Master-Slaveモデルに抗して、2022. 7. 25、理研GRP 夏のワークショップ：ロボットと人間「未来のロボットと人間の間を考える」、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）理化学研究所ガーディアンロボットプロジェクト.
6. Deguchi, Y., Self-as-Anyone: Dōgen on Self and the World, 2022. 7. 30, How Zen Became Chan: Pre-modern and Modern Representations of a Transnational East Asian Buddhist Tradition, On-line.
7. Deguchi, Y., From Capability to Incapability, 2022. 8. 1, Wisdom of Asia 2022: the virtual mobility program, International Division, Mahidol University, on-line, a special lecture.
8. Deguchi, Y., WE-turn in Japanese Buddhism, 2022. 8. 19, Buddhist Philosophy of Community, XIXth Congress of the International Association of Buddhist Studies (IABS), On-line.
9. 出口康夫、「できなさ」からWEターン、さらにはパラヒューマン社会へ、2022. 8. 25、先導的人文学・学術知共創プログラム「よりよいスマートWEを目指して」キックオフシンポジウム、大阪大学.
10. 出口康夫、パネルディスカッション・コーディネーター、2022. 8. 25、学術知共創プロジェクト

トワークショップ (WS11)、大阪大学.

11. Deguchi, Y., Logic of Presence, 2022. 9. 12, the Logic & Metaphysics Workshop, Graduate Center, City University of New York, On-line.
12. Deguchi, Y., Self-as-Anything: Dōgen on Self and the World, 2022. 9. 13, Smith College Public Lecture.
13. 出口康夫、宇宙開発、軍事研究、「みんなで議論する」ことの可能性、2022. 9. 25、トークセッション、ジュンク堂難波店、with 伊勢田哲治、福島聡.
14. 出口康夫、成熟時代における生き方と社会の在り方：ポストSDGsを見据えて、2022. 10. 30、京都大学人と社会の未来研究院・上廣倫理財団寄付研究部門第3期キックオフシンポジウム、指定討論、京都大学.
15. Deguchi, Y., From Fundamental Incapability to WE-turn, 2022. 11. 7, Meta-Science: Towards a Science of Meaning and Complex Solutions, Mini-symposium Commemorating the 20th Anniversary of the Osaka University – University of Groningen Agreement, Osaka University.
16. 出口康夫、「ひと」の「WEターン」へ、小田急WS Odakyu Innovation Week 2022 (DAY1) 「“ひと”起点のまちづくり」、2022. 12. 5.
17. 出口康夫、“Dōgen on WE, I, Self & Other Enigmas” ワークショップCAPE (京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センター) との共催：Self-as-Anything: 道元における「自己」「世界」「他者」、2022. 12. 5、京都大学.
18. 出口康夫、CAPEワークショップ CAPE 10周年記念コンファレンス、座談会出席、2022. 12. 8、京都大学.
19. 出口康夫、JSPS シンポ 先導人社シンポジウム 令和4年度 「学術知共創プログラム」採択テーマ研究活動報告、2022. 12. 15.
20. 出口康夫、第二部「考えたので、歩き出す」パネルディスカッション、京都大学オンライン公開シンポジウム「立ち止まって、考える」、2022. 12. 10、ディスカッサント、京都大学楽友会館.
21. 出口康夫、理研ATR講演会 「人—「e-ひと」関係」に関する「われわれ」基準、2023. 1. 23、理研ATR西館.
22. 出口康夫、第5回日立京大ラボ・京都大学シンポジウム「創造的市民による社会づくりとWellbeingの実現」、WEターン：できることからできなさへ、2023. 1. 26、上野イーストタワー.
23. 出口康夫、「まことのみんなの幸せ」へ：スマートWEプロジェクトへようこそ！、ウェルビーイング研究に関する連携協定締結式、2023. 2. 4、越前市生涯学習センター.
24. Deguchi, Y., “WE-Turn” of Freedom to “WE-Standard” for Ethics of AI and Robots, 2023. 2. 21, International Workshop, “Toward a Better WE”, Rakuyu Kaikan, Kyoto University.
25. Deguchi, Y., « WE-Turn » of Freedom to « WE-Standard » for Ethics of AI and Robots, 2023. 3. 20, International Workshop “Self and Infinity”, Husserl Archive, Paris, France.
26. 玉澤春史、天文学普及プロジェクト「天プラ」、一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会 (エコツツェリア協会)、「都市部で光害防止条例を制定すべきか」、対論型サイエンスカフェ「明るい夜空、どう思う?」、2023. 3. 13.

27. Taguchi, S., Self in Superposition: Husserl and Tanabe on the nature of the self. 4E Cognition Workshop 2022, Toyako Manseikaku, Hokkaido, Japan, 2022. 6. 7.
28. Taguchi, S., The Mediated-Mediating Nature of Consciousness: An Enactive and Phenomenological Exploration of the Twisted Loop between Body and World. International Workshop "Self and Infinity," Husserl Archive, Paris, France, 2023. 3. 20.
29. 三谷尚澄、山はいつでも歩いている——「プラグマティストの形態における表出主義」と道元、シンポジウム「道元と分析アジア哲学」、比較思想学会第49回大会、2022. 6. 18、信州大学.
30. Akiyoshi, R.; Arana, A., Takeuti on finite and infinite sets. International Workshop "Self and Infinity," Husserl Archive, Paris, France, 2023. 3. 20.
31. Murakami, Y., AI Ethics with Emphasis on Philosophy and History of Science. WCCE 2022, International Conference Center Hiroshima, 2022. 8. 23.
32. 村上祐子「データサイエンスと差別」進化経済学会、立教大学池袋キャンパス、2022. 9. 17.
33. 村上祐子「コメント：コミュニケーションメディアの哲学」日本科学哲学会大会シンポジウム、名古屋大学、2022. 12. 3.
34. 村上祐子 “Philosophy, logic, mathematics, CS and engineering” 日本科学哲学会ワークショップ、名古屋大学、2022. 12. 4.
35. Murakami, Y., Logic toward AI Ethics: A role of moral reasoning in DS education. World Logic Day Japan 2023, 2023. 1. 14.
36. Murakami, Y., Constructive WE for logic of agency. International Workshop “Toward a Better WE”, 2023. 2. 21.
37. Murakami, Y., Introduction to achievement stit logic of agency, RIMS Kyoto University, 2023. 2. 25.
38. 戸谷颯・村上祐子「非同期コミュニケーションでのemojiリアクションによる心理的距離推定」情報処理学会第85回全国大会学生セッション、2023. 3. 4.
39. 村上祐子「科学技術倫理の中の 人工知能の倫理」シンポジウムAI医療の生命倫理、2023. 3. 5.
40. 村上祐子「機械と身体の遠隔操作技術のセキュリティ／倫理問題」2023年電気情報通信学会総合大会 AP-1. 「使える」倫理綱領をつくる：2学会倫理綱領改訂の現在とこれから、2023. 3. 10.
41. 戸谷颯・村上祐子「emojiリアクションの使用に現れる心理的距離変化のコホート分析」情報処理学会第202回HCI研究発表会、2023. 3. 13.

○本事業で主催したシンポジウム等 （計7件） うち国際研究集会 計3件

1. 「よりよいスマートWEを目指して」キックオフシンポジウム & ワークショップ（「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」との共催）、大阪大学、参加者数不明、2022. 8. 25
2. 第一回「ヒュームとWE」研究会、Zoom開催、参加者約10名、2022. 9. 22
3. Rein Raud教授講演会、京都大学文学研究科、参加者約10名、2022. 10. 27
4. International Workshop “Dōgen on WE, I, Self & Other Enigma” (CAPE: 京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センターとの共催)、京都大学文学研究科、参加者約10

名、2022. 12. 5

5. 第二回「ヒュームとWE」研究会、Zoom開催、参加者約10名、2023. 2. 17
6. International Workshop “Toward a Better WE” (JST-RISTEX RInCAプログラム「コミュニティのスマート化がもたらすELSIと四次元共創モデルの実践的検討」との共催)、京都大学 楽友会館 (1日目)・奥琵琶湖マキノグランドパークホテル (2日目)、参加者約20名、2023. 2. 21-22
7. International Workshop “Self and Infinity”、École Normale Supérieure、Paris, France、参加者約10名、2023. 3. 20

○社会発信 (計12件) ※新聞・TV報道を含む

1. 「軍事研究の行き着く先は「政府監視のディストピア」か 京都大学教授が懸念」、京都新聞、2022. 9. 9、<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/amp/874349>
2. 「40年ぶりの同窓会」、『以文』、第65号、京大以文会、pp. 1-2、2022. 12.
3. 「デジタルツインと共に「われわれで決める」哲学者・出口康夫氏が予測する意思決定のカチ」、博報堂 DY メディアパートナーズ・メディア環境研究所、2022. 12. 7、<https://mekanken.com/contents/2634/>
4. “Vision for a Sustainable World,” Wall Street Journal, 2022.12, <https://partners.wsj.com/ntt/vision-for-a-sustainable-world/sustainable-future-for-business/>
5. 「<私は誰?> (中) AI「顔の3割」であなた認定：普及、多様な「私らしさ」表現」日経新聞、2023. 1. 15、<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO67556230T10C23A1MY1000/>
6. 「京都大学との共同研究「しあわせ」の再定義と定量的尺度作成のための調査研究」の成果を公表」、株式会社お金のデザイン、2023. 1. 30、<https://www.money-design.com/news/detail.php?id=333>
7. 「自分らしく幸せに生きる」を金融サービスはどうサポートできるか？京都大学とお金のデザインが共同研究」2023. 2. 1、HEDGE GUIDE、<https://hedge.guide/news/money-design-survey-202301.html>
8. 越前市共同研究についての取材、福井テレビ、<https://www.fbc.jp/news/news95ofw56haz1bfv16gw.html>
9. 「ウェルビーイング研究に関する連携協定締結式」福井新聞、朝刊、2023. 2. 5
10. 「越前市と京大教授らのプロジェクト 幸せ実感研究で連携協定」中日新聞、2023. 2. 5 <https://www.chunichi.co.jp/article/630466>
11. 「対談企画「立ち止まって、考える」出口康夫 x 熊谷誠慈」、YouTube 動画、京都大学 人と社会の未来研究院、2023. 2. 11、https://www.youtube.com/live/3I2_B-1lzAE?feature=share
12. 「哲学×投資で幸せ可視化 8項目、資産形成の参考に 京大大学院教授ら開発」、毎日新聞、2023. 2. 12、<https://mainichi.jp/articles/20230212/ddl/k26/040/155000c>

○ホームページ

<https://www.smart-we.bun.kyoto-u.ac.jp/>

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 令和4年度 委託業務実績報告書

プログラム名：学術知共創プログラム

研究テーマ名：よりよいスマートWEを目指して:東アジア人文社会知から価値多層社会へ

実施機関：慶應義塾大学

1. 業務の実施日程

研究項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① e-ひとの関連文献の調査と文献リストの作成							←					→
② e-ひとに関する重要文献の要約集の作成									←			→
③ e-ひとをめぐる学際研究											←	→

2. 業務実績の説明

① e-ひとの関連文献の調査と文献リストの作成

e-ひと（ロボット、AI、デジタルツイン、アバターなどあたかもパーソナリティを有しているかのようなパターンをもった振る舞いをするもの）に関連した文献の調査を行ない、文献リストを作成した。なお文献リストは更新を続けている。

② e-ひとに関する重要文献の要約集の作成

①での文献リストの作成と並行するかたちで、重要文献の要約集を今年度の研究成果としてまとめた。これにより、e-ひとを合意形成支援のファシリテーターとして、また人的交流のメディアーターとして導入し、その効果を測定する実験のための基盤が確立された。

③ e-ひとをめぐる学際研究

国際ワークショップ “Toward a Better WE” を開き、日本と中国の比較思想、論理構造・言語・認知科学、政治哲学・環境倫理学など多様な学際研究を通じて、さまざまなコンテキストでのe-ひとの意義と価値、課題や懸念点を検討した。

【研究成果の発表状況等】（責任機関（研究代表者）のみ記載）

○本事業で主催したシンポジウム等 （計1件） うち国際研究集会 計1件

① 国際ワークショップ “Toward a Better WE” 2023年2月21日-22日、京都大学楽友会館および奥琵琶湖マキノグランドパークホテル。

○ホームページ

<https://www.smart-we.bun.kyoto-u.ac.jp>

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 令和4年度 委託業務実績報告書

プログラム名：学術知共創プログラム

研究テーマ名：よりよいスマートWEを目指して:東アジア人文社会知から価値多層社会へ

実 施 機 関：南山大学

1. 業務の実施日程

研究項目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
① 越前市でのフィールド調査体制整備						←						→
② 合意形成支援ツールの開発						←						→
③ フィールド調査に関連する研究倫理						←						→

2. 業務実績の説明

① 越前市でのフィールド調査体制整備

来年度半ばまでに行う最初のフィールド調査に向けて、越前市、自治振興会、市内の教育機関に対する研究内容の説明、協力の要請を行うとともに、先方からの要望や懸念について聞き取り、調査計画の調整を行った。これにより、2023年2月4日に越前市との連携協定が締結され、調査のための基盤が確立された。

② 合意形成支援ツールの開発

①での調査計画の調整と協調するかたちで、合意形成支援ツールの実装に向けて具体的な詳細についての検討をグループ内で行った。具体的には越前市の地域団体に導入するオンラインディスカッションシステム **D-Agree**と、このプロジェクトで開発するツールとの連携および機能分担について検討した。

③ フィールド調査に関連する研究倫理

研究を実施する研究者側にはフィールド調査を行うメリットがあるが、対象地域あるいは地域の核ステークホルダーにそれがあるとは限らない。研究倫理に反した身勝手な地域への介入にならないように、地域の利益やウェルビーイングと調査が両立するというだけでなく、後者が前者を促進することにつながる調査デザインについて検討を行った。

【研究成果の発表状況等】（責任機関（研究代表者）のみ記載）

○本事業で主催したシンポジウム等 （計1件） うち国際研究集会 計1件

① 国際ワークショップ “Toward a Better WE” 2023年2月21日・22日、京都大学楽友会館および奥琵琶湖マキノグランドパークホテル。

○ホームページ

<https://www.smart-we.bun.kyoto-u.ac.jp>